

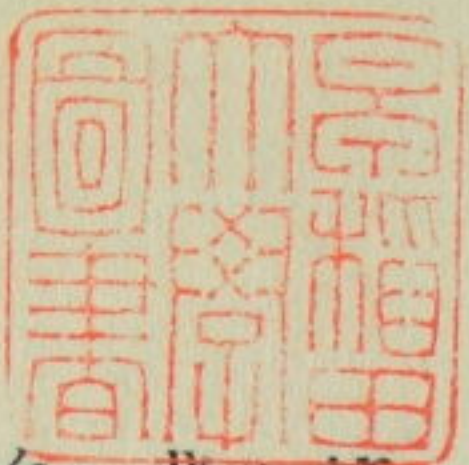
十燕
種石
江戸
姓古
圖說

六輯

壹

10
679
54





燕石十種第六輯叙言

叢書と云物赤縣もも明の程榮が漢魏叢書より古きあらど
 皇国よてハ温故堂の群書類後を以權輿とすべき歟此類後を續編と
 有る三百年前のおハ大く遺漏あるべき以迎世の物に奉らせふ多くも
 ありすき紙史の拙もあり果池魚の難ふ罹りありて散逸をを吾
 友の書賈法齋翁の門人活東子書好む心小深く憂い物の考もあり
 事の發ともありたるもいとハ猥雜ある浮世草紙様のおをも喜得
 ば十種を一帙とて始り師の校訂を清く既小六帙及びびぬさるる鄙
 談も陰陽師身と知らばと云如く書齋南人ハ書名をこそ廣くとも
 著も緒も其書の大旨をさるる知るてあるが多うるを法齋翁を
 考へ物学れ道志重く詞林少く入立戯文章雅歌賦と云へ傍小
 敬びて雅俗に通る博識あり來れ流るるを必もてりて云けん
 人のするをさるる小渡世の學小賢く日毎小市小お店棚をもち

一日も人の任されたる公見れば其貿易の間暇ある時に草烟吸ひは其の傷
嘔る間をふ其惜みて書成も續筆をも執て二六時中怠慢なりけり
實人をも其書りも心を得難し押書坊の主少く文筆も狂び一昔より
絶く暇にけりもあらず遠くの欄つ先古くは是もすの池は遠くは
和泉屋半三郎の文賈といふもの始ありとをこそ孫々學者より由事跡
会考ふ記せり元禄年間小萬屋清兵衛青物町の人とて丸の賈客ありけり
少りきとて芝の田町の物販續濱を主人も三河屋半三郎とて書賈十
種庵霜解も後多人とて心中要助とて同いといふと市客あり二世
乃燕栗園山田と又同いといふこと皇國學子信切とて普通人の歌續
少ありとて猶度く索あはさる人共ありもきりめと二百年来十人あり
過るるはそれとて公卿の如く性質の篤實ある上件の人々もあ
りゆが也その實情少校会せらるる書とも小杜撰ある事有るさういふ
知らぬ書どもものせし現を寫辭りゆとも能讀るるありぬる蟬室

其の面起し情あるもの其よろこび涙うりや此叢書今小百巻の
も充ちん人ありあはれ嬉しきふつ不覺ふ思ふを巻首の書添つ
文久三年癸亥仲春
二世柳亭種彦

燕石十種第六輯

江戸書會

待賈堂

法齋五一編老人點檢

男 左七活東子纂輯

一江戸性古圖説

一慶長年間江戸圖考

一林鹿乃花

一鹿の巻筆

一繪とらあと

一三弦根元記

一遊女吉野傳

一道成寺考

一新吉原町定書

一芝居町の汚觸書

通計十種

附言

毎輯原本傳寫の誤字多うかを憂いて家父鶴翁小例の點檢を請ふ翁邇來多病為事放肆一回の塗籠良久して落成す終つて後是を傭書小女す彼レ文字ある將冊意あるねば重ねて根銀の借字をかせりされば校心かきりある落葉を拂ふと匹といふん再訂せんとすふ忙中の困をふ得る事あり別以て方の社願小分疏をかすこと

文久四年甲子癸春

江戸書會二世達磨屋左七活東子識

九例

- 一 九圖中 **地名** 池沼宮寺此外朱平を以て
- 一 九名區陳迹の天心十七年より以ての夏を以て同十八年後今の
ことふありていふふ不云を以て今世ふりていふ戸砂子を解知の地を
以て書多るん其書以て照し合きく見よ
- 一 九神廟佛刹の用基草創記立録記等の古書此にきを引證し且國中
にりてさる夏も其因ふ依て古事ともい説を副
- 一 九回蹟佳境の古歌古語を以て是を辨正
- 一 九古地の荒廢古今の沿革の古老の傳統旧聞異事等以て此書元来
俗族より出る夏も多るん其の傳しともいふこれの地知の後好士考証
希ふものあり
- 一 九書中の祀を以ての年歴の享和元年辛酉年迄と都る
- 一 九書中故事等の戸砂子なき夏也相違さる夏りて其異同を記

まき

かき蓋大古の荆棘あり藪薨小原一寺の地りて方角抄も氏名二圓
おある野といひうちそ古事よ 仍す是の事もむとふ成る此の
事れ亦より出る月うがかく縁ぢりもむい今ふりては猶地ある
里此名物の唱も易りてさるる事多くある中疎迹回等の述ふなせ
るも何と止波のさるるの目さる血戦軍陣の御も今海内沿革小化し
嘯さるるりづる風流の名境とあり跡ふ亦都一万邦小秀一級花の大教舎
ぬぬ古今の沿革九三百は十有余年來のさる一蹟を今記るとのありと
志り

寛政庚申年

大橋方長尺寸堂小
おわく祀

江都徃古圖說上卷目次

一城郭

一下平川村

本住院
三瀨院
明神三神明

一上平川村

池
荒土明神

一櫻田村

一比々谷村

一横山村

一新倉村

一大澤村

一今井村

神明池

一阿左布村

一大根原村

一國府方村

一上澁谷村

一下澁谷村

一三田村

一銀三田郷

一高繩村

一北品川村

一南品川村

一目黒本村

一市谷村

一千駄ヶ谷村

一牛込村

一原宿村

一山中分戸塚之内

一富塚村

一落合村

一池袋村

一僧司谷村

一中新井村

一石神井村

一練間村

一谷原在家

江都徃古圖說下卷目次

一神田村

一新堀間村

神田内

一芝崎村

曬神場

一湯島村

神社

一本郷村

一小石川村

一巢鴨村

一金曾木村

一小日向村

一駒込村

一平塚村

一田端在家

一西ヶ原村

一尾久村

一梶原堀内

一豊島村

一滝野川村

一十条村

一板橋村

一大藏郷

板橋内

一志村

一下谷村

一廣澤村

一代山村

廣澤内

一根岸村

一箕輪

高屋

一金杉村

一谷中村

一新堀村

池

一三河島村

一鳥越村

一淺草村

觀音堂

一無戸分池

一千束村

一石濱村

會下寺

一阿佐ヶ谷

- 一大川 宮原川 荒川下流
- 一石原村
- 一木下川村
- 一洲 葭沼ニケ處
- 以上
- 一牛島村
- 一須田村
- 一平井村
- 一柳島村
- 一關屋村
- 一龜高村

城郭

興基

康正二丙子年巧匠ヲ始翌長祿元丁丑年四月八日成就スト云

人皇百三代後花園院御宇京都將軍足利八代義政稱東山殿
 關東ハ足利左馬頭成氏稱古河 執權山内上杉兵部大輔房顯
 扇谷上杉修理大夫定正是ヲ兩上杉ト云定正老臣太田備
 中守持資後ニ入道道灌此城築カレシヨリ當今享和元辛酉年ニ至リテ凡三百四十六年ニ及ヘリ

此城地ハ今ノ西御丸ノ辺リノヨシワツカナル構也ト云其後ノ事憚リアレハ爰ニ不記

此城郭ノ地ヲ江戸郷ト云ヨシ今ハ惣名トナレリ

下平川村

北条分限帳ニ出

○ 幸住院文正中太田氏此地を後柳系又谷中に移り元禄中今ノ地
に不之移る今ノ平川に法恩寺を同基ヨリ九百三十五年

鎮守 平川清水稻荷

番神堂を更 幸朝三國志北条入代記等載る太田源六見中

法恩寺の番神堂を集りて神水を呑み合戦の洋儀を志すことハ

世法恩寺いま平川小舟一時と書く

從古此地平川といふ流を所り今の江戸川勢を橋の筋も水道橋の
上ニ橋稻荷社の辺より飯田町下迄板橋の所くもり可橋が東南
の方へ流れ白根町油町渡所の方へ流るり今の常盤橋も平川筋の
かたを大橋と唱へあり今の川筋もさうなり

又平川の一水を隔て三の丸の方をさして江戸の所を稱へ平川の北の方を
神田の所と云ふ石をき橋村といふなり

○ 祝村 今の太田の思之 祝言寺天文十二太田氏建立今法華あり草創

九百二十九年

○ 三遊院 是今の坂中養正院と云

世法恩寺の流元橋梗門の外に三遊院と云ふなり

○ 吉祥庵 太田氏平川に造立遠心丹波中興今の駒込吉祥寺也

上平川村

今の平川市門のり

太田道灌は城鎮護りして文明十三年六月廿五日に此地天神宮を柵柵
筋法天心中平川に移り又慶長中今の地へ遷座して回春のまへ平川
天神と神号す 九百廿六年

世に平川に造立の寺院多し尤太田氏草創し不今赤坂源照寺

○ 同濟土寺 牛込平川寺等又押上大法寺 大永六年草創九百七十六年

○ 麻布東福寺 茶師堂 文明八造立 九百廿六年

○ 法草社玄願寺 今の角津九下の名ふ所りと云ふ後神田張町明曆中今
の地よりつる草創不知

○ 芝切通 金地院 古御城門に有と云

船流乃名衣よま支の寺社裁判の事金地院とて取次小實永以より
武家の職とあり今境内善業祖も旧地古寺院ととも引く可と云

○局澤 北条分限帳に比名出 或云今の吹上と云

新ち町善徳寺 専稱院 聖徳寺等あり

○梅林坂 牛込正藏院より古田氏建る知

○紅葉山

○四谷 西迎寺 古田家士伏見助七建

或云柏崎永以の支の序と云書ふ載る知の事

跡にの築角をい戸上宿人は同谷吉波を計い戸上宿同谷馬込助解由同

馬借同谷又田又田布

右の地ま子代田實田村の遺蹟あり

○大橋田址 今の常盤橋古名之 此地いり平川村の門を

白石先生紳書云是ハ昔も在り平川も居る流れに横橋ありてその後今
の系橋より印筋通の町出来りて川筋堀りて日中橋江戸橋も出来り
ありんては長又以後の事ありて

橋より系橋を北のより後不究る京師の性来り系橋向も赤坂に
馬の九上りて中町通りと云

そは中町といふも古名不知是も白石先生の流

○大橋柳町今今のごとく橋門の色も有りて地ハ社女をたると候といふ
又今の鎌倉の屋の色を此の古名不知い色も社女をありて

○千代田村遺跡 今の跡に色ありん今常盤橋門より子代田橋前祠あり
そ地ありて神廟を後ふりてのをあり

○東光院業師堂 慈覚大師の完基とて古田道灌も教有り如支今の
ごご橋と唱りて此をまといて後今も地馬向を橋なりて今業師堂
茶の名残有り今後まとい

但慈覚完基と云ふも九百二十三年とも及ぶ

○福田村旧跡今今の石河原町を以てつらなをた^たと云ふ今銀河向の岸に
菓子原大久保氏も大橋の邊小丘よりト養の祖系も見^るつら^ら大久保氏
今居佐の地門に福田稻原の久勢清と云ふ福田村移りし神也

○白旗稻原の祠 是も福田村移りしと云和洞年中起きと云

宗貝田村 是ハ今の太田をあらん^る或ハ龍の口辺ある^る今の大徳馬町の其地
より引^れん^る今馬込氏居佐の地^に寶田稻原の祖あり是ハ石河原と云ふ
より引^れん^る今石河原道權の^り小 子代田より宝田の^り同本也 世經再
馬込の家も今小徳と云ふ^り

○六本木村の迹 今の小徳馬町は地ふる^る今^の古名の^り是^は性還
少^し馬込の^り宿^りと云ふ^る後大徳馬町と同時^に小徳馬町も同^じなり^し

○子代田飯沼稻原の祠 小徳馬上町新居あり

世初ハ湯島師有勢清の^り不知文明中^に吉田氏湯島^の地小天満宮造營
の^り附^り恐^る園^の後^には^は地^に又^は田^の氏^の地^にある^る子代田の^り實^に中^に在^る權^の
子代田若狭と^は勢清^のは^は早^になり^しと云^ふ戸^の砂^子子^は子代田村^の迹^にと云^ふ傳^へる^る
又ハ南^に大徳馬町の^り系^にと云^ふ

○追廻し馬場遺址 馬喰町小裏通り今ハ^の馬場^の是^は古^{より}なり^しと云

世^に古^に馬喰町上寺町と云^ふ今^は元^の岩井町橋^の町^のと云^ふて寺^のと云^ふ

○浅草新堀 清水寺 世^に地^にハ^は新^の創^の地^にあら^んと云^ふ向^に流^るを^は造^る
之^ハ慈^の覚^の完^の基^のハ^は天^の長^の年^の中^にと云^ふ九^百九^十年^の末^に也

其^の外^に寺^のく^りなり^しと云^ふ其^の地^にハ^は新^の創^の地^になり^し其^の寺^のハ^は後^の深^の川^の
深^くなり^しと云^ふ

○牛島渡^り今^は西^の橋^のから^はさ^に以^て新^の造^る後^に之^を西^の橋^の掛^りし^は以^て大^の橋^と云^ふ
其^の外^にハ^は盤^の橋^と改^りし^と云^ふ

櫻田村

今^の外^の櫻田^の中^の門^の外^に南^をさ^しと云^ふ

風土記に在系郡櫻田郷の岡及び野櫻樹多きを以て也今不詳是為歌云
倭名抄に櫻田郷と北条旧記に櫻田村とてり

新著聞集云櫻田虎の門も愛宕を近田地と畔に櫻の木も亦あり
田の中の流を櫻川といひ今之源郷橋を付の志とて残りたること不詳

○櫻川 河この小流れを云 支大に流れと江戸砂子今櫻田の名残りたる
永田馬場阪心か多候の門の山を性古の櫻の古樹一株あり古木の枯れたる根より

枝系生へ再び花咲今昔毎盛りをみまひ誠と古きを残りといひ櫻獨りの
○馬森神祠 社傳に櫻田村に勧修院慶長年代に不知祠のり友系秀郷將
門退治し順奇瑞の事ありと載り

○霞山 櫻の 田地性古に霞山とてり社傳に濃谷名司重國勧修文明中
右田道權再興 又頼朝公の時櫻田村莫田六百七拾石寄附とあり山櫻田の平に

桜木多し櫻れ又要害を構へ江戸古所ふさしり性未を改めとて史より
まゝ後世地を麻生と社とたふ移され今の麻布櫻田町 石姓町是之今もあつて櫻田町又

保町を産土神とを

風土記云櫻田神社に丹波心櫻の事と云別當 石原心櫻田院と云

○霞園旧址 今蕪州侯筑前侯のつりをいふ

風土記云在系郡石原の日本武尊東征の頃完了り不詳して勝京の地を遠皇
石原を隔つた石原宮の号ありと云ある尚中一の田名石原今豊島郡に属ス

傳云性古真別性還りて前の石海ふつと遠干深少て岩の松生茂りつり
宗祇名下方角抄に石原宮石原宮と云園あり東向きの石原の宮に見え東川流に

つりと云々
季子吟存の云後橋をさく石原村と云あり石原石原宮の如しやと謂は石原の
云石のりさく宮土の石を東の方川流るとあり

○石原石原宮の石原宮を城と云う宮城といふも不詳と云
揚子石原宮城といふも多麻郡府中のこと

其流區くして一定ありと云れども石原宮古流あり石原宮に石原宮とも云ふ

地境より昔の今ふびり世柄りお換りて其昔海老田の邊ありふりて今端
つき事多しこれ世より古く京師より陸奥性漫く地にお遠あるより其境
の及女を考ふる外横田の南の方より富士見坂より又赤坂の門より其
の及之世地むていふ事知る所とも云ふべし

○ 海船門 横田をいふ

○ 小田系門 今外横田の門の如きをいふ

比之谷村

今比日谷 又比尾谷とも書し其山系分限帳にも世名も今比日谷と
云ふことと比日谷りふもあき小谷といふ一折る今其限を記し
そ言ふりりありんう又その町もその名ありや今のまがこりて
か

古世地入はして其入の地を今の津田屋敷と稱する地ハ新井先生の語に世地
元来水の中ありて伊達政宗侯築うけ地と云ふこれいふ入の境符合せり
或云は地東南の方流入の入口の方陸地と云馬場先迎の如く田畑の由八代洲の

の不穠所の住家より海唇を号りて今と云今ハ比日谷の地新橋と芝田と
されり

或云古橋と云ふこと今魚賣とて是を業と云ふもそ送風といふ

○ 深川法禅寺

性古八代洲の岸に在り 中江馬喰町に有後深川
今の地は橋

○ 山王宮舊蹟

横田の端元山王谷町と云知る

文明中古田道灌入る新川城に彼より平川に勧修延徳中より城を移され修造
万治元漏池の今今の地に近座
初平川に勧修寺九三百有餘年と云

今山王末社勧修祠に掛り其の鯉にありて移る其遠心丹波も直京奉祀天正
十四戊戌年九二百十六年也

是ハ山王宮旧地に在り以遠心氏ハ山系家之屋ハ江戸を城あり今大社と云
相違せしを以て其社とありてそのありん城ハ江戸三の古名といふ

○ 貝塚 今平川三丁目裏通りを其の古名也 その後通りを其の略

文明中
九三百年
延徳中
九三百年
余年

○青松寺古池 今平川の馬場の方の古池を云々今以て貝塚寺古池と改
増上寺旧地 貝塚寺と云々此池を云々とも云

○武徳二丑年冥基 古名光明寺と云々一八九百十七年

○圓面城郭南の方の池沼のうらもあまの漏池ありて一漏池古池ありて
見ゆ圓初の柳りの上水も用ひられや寛永の頃の古池の源と云々されり

○市谷八幡宮旧地 市谷の内北角今ふか氏居住の地隅丈は榎一株在りて云々
永中今の市谷の地へ遷りてと云々ありあり今市谷八幡社地ありて古の障の
跡も旧地の事ハ記され

横山村 此名不知 北条日記に載

或云今の版田町のりりを横山村の旧地と云

新倉村 北条公限帳にも見えり今の版倉ありて

ありて古の教倉の地の地ありん

文武天皇之義倉を築きて是倉民を救ふ古の善政也

○芝神明宮 寛弘二己年延慶旧地の版倉のよりを版倉神明と云
その後今の地へ遷座あり寛弘九七九十七年斗りの旧社也

○増上寺 開基八百代後小松院武徳二丑年貝塚寺の創今の麴町
平川也其頃の光明寺と云々此地へ移されり慶長二酉年大伽藍と云々
十七年の滅ぶ東方寺創の冠り貝塚寺の創より九四百十七年今の地へ
移されり二百余年に及び

○武徳編年集云慶長二己酉年武徳院のり去り天正辛卯年平川に移
されり増上寺を芝の地へ移されりとも云

志し天正十九年平川に移され慶長三己亥のり芝の地へ移されりありん

○西産の名旧記に見ゆ是も版倉の内也

○天徳寺 天文二己年創始天徳庵と云々一八九百十九年

○昔津心 西産石原第宅のふむう一古田氏出城のふと云古江戸を見えふ
ひこりり南の方の山林樹ありて

○西産の概心と云知あり熊谷直實居候の事と云

是直實ふりし其類熊谷何某の致合あるを

世をいつの日の春を少や徳のふと云まうし是熊谷氏神として我

為候人私堂の祖神也

武田勝頼於新市神社也村上帝の在丹治何某大里殿ふり向新市を更

と号ん

○飯倉八幡宮 西産 一条院實弘中法座と云九七〇九七〇七〇七〇七

○加茂丸馬の助旧地 切通一河部家の地と云

○勝の系 赤羽根廣小治のふいりく廣系のみりち田道權出陣の時

人数を採らりし知と云

○金杉西産寺ハ 在安中寺創

○幸芝海の三徳神祠 文明十二年鎮座九三百有余の古祠也

○飯倉熊野神祠ハ 養老中法座の勅後候に今の地へり九百有余年之

○田町五丁目 三辻の所をえれの辻と云日中橋より一里昔のよるれ場と云

○三田八幡宮 田町七丁目

社傳云一条院實弘中法創 九七百八十有餘年

風去紀に神田八幡和銅二己酉八月始祀神祀九百九十有年一本風去紀

其田八幡 天平六年辛未年八月自宇佐宮遷行
干養九百七十有餘年

今芝と云地の芝は橋の南のり田町と云橋のりその惣稱あり其地

其廣

宗祇法師云 宗祇法師亦於其の文亀二の頃之九三百有年計

そのぬりもりの燈名をその所記よりつむ芝の傭人

源持資云 平安紀行

其志けき道の芝生をぬりしと云ふまうすも明多の宮

世平安紀仍の右田道權道の記之

瀬名氏南向東居の祭の祝不同於の新波の祝を依りしと云今更

古をいふゆへに其の別名生かすむすし種ふつと平系つと平系つと
芝生するゆへの名ありと云はれは是れあり大永四年正月十三日
合戦の上杉朝興と後醍醐天皇の宇田川和泉と芝十部路多と云はれ
其の地名もちと云ふなりとありん

又芝はより金板橋をふり東の方海をきて今の新築産新細の色を
皆茅葺生を削りてありて遠くゆ事ゆ寛文の御時にも是なり

大澤村

今世名あるゆのまはれ是今赤坂の旧名なりと云ふ所つとあり
所を大澤何と云ふ古名の残りとも云ふ小系氏康の長孫也此ゆ大澤の店と云
より今氷川の神事小大澤町の名あり

一本村今一本町と改いりて二面の平系と一本系と云ふ縁合九代起大永
四年正月十二日小系氏綱と上杉朝興と上野敵の首實掬り勝鬨をとりひい
見ゆり世地町を改りて天正十九年順といふ

○平川山澤寺 性古平川はありと云ふ

○圓通寺の鐘銘深美元改の地也

今井村

今赤坂を越ると云今井町と云

世地古に任系教ありと云今豊後郡に属す
世地小神明と有る今の氷川神社の事あり
風土記に任系教赤坂古呂故園天神白鳳三徳座と云り今氷川と稱す
九一子九十余年の旧社之旧地今の赤坂津門外傳馬町坂上元氷川と稱す
今の地(遠座)もも後享保十四年也

○今井城 今井あり今松平藤列候中殿の所

是田子先生義賢也城の地と云或今井曰藤系平にも云南向茶話と云赤坂の号の
赤坂の地ありの稱もあらず既濃別三列とも赤坂と云ありゆも心の赤し
丸と号ると云性古の性還の府中より赤坂より通す事又一改の相別の方より
二子(かき)あけの通りありまはれも赤坂(通せ)とも又一改の品川と云ふ赤橋
色も赤坂の号あり今の為の九下を改め城あり今井通り(ゆ)と云ふ事いふ

赤坂と云く性還筋のりしうを赤坂他馬町の名ありと云

河左布村

北条分限帳に出今麻布と書又麻生と書由古く云傳ふ

元任系 今豊徳郡小原

此地性古麻を多し植産さ布ありと傳せしうりの名ありと云又云生と書く
時の草液と生るの習も有り

善福寺の元真言宗空海師用基大伽藍は百年程後申奥了海上人の改宗

津去真宗よりまへに百有余年といひ号を麻布と云當不中一の古法也

氷川神祠 麻布惣領も此文中古田道灌記にあり九三百有余年といふ

大根原村

北条分限帳にも出今世名不知巢鴨の名こふは名あり一づ是も

今世名呼ふ事あり

氷川の旧地は今増上寺退院の本麻布大明神と号せ由武徳安民記に慶長十八
改阜ノ歌の首級級の門宗院の首百廿をわらうれ實檢有く麻布の系と埋と
首塚を築く増上寺源登上人玉為院の令う教養をこせしと云く世後

不祥今の増上寺屋敷の知あらん

一本松 六孫王經基の習あり

或古老云古の建礼といふ世地は持徳へまを是を見らふ小野篁用也
あうりし

國府方村

北条分限帳に出今并橋と云武府方橋の轉せしといふ又小原の
竹と云くとも又香貝とも或鶴ヶ谷とも書く一云甲賀伊賀橋と云くを昭徳
王と并と云とも江戸砂子源經基龍川高常刀の釣點を固ちる給ひ一在よて
釣是橋ありを後小并よりありしとの故事あり右の鏡く匿くしを是より
非とせんや國府方の流是とせんといふより性古の性還といふもあらず
百人町田町家の内にも其古法残りといふ

澁谷村

北条古記に見出今上下村あり

性古谷盛と云或は交盛とも

八幡宮をこへつ澁谷也此地澁谷氏居住の地と云

當社の寛治六年勅造といふ九七百年より及り或は之經基陣宿の本を改寺
と稱し親王院と号す是今の東福寺の事とす 八幡御記云河崎古地と基
家軍功より武別谷盛彦を賜り寛治六年正月廿八日八幡宮を勅造り
皇室二十三流谷の姓を賜り是流谷氏の始とすを今も九と云由載り或は龍見
丸京貞室入道流谷を願ふ家系云貞室子龍見平次左衛門室明元弘三癸酉年
二月十六日入河川合戦討死す
金丸城址 八幡宮
河崎屋司次郎殿址 堀内と云ふ
姉尾平次光宗殿址 同也
流谷室圓殿敷跡 上流谷岡部家下級門
長者丸 流谷長者と云ふ者傳ふ所と云
或は長者の墓と云ふ松原氏の所といふ又丹波家門ありとも何れも是
ありと云ふべし

○長谷寺

曹洞宗 天正十二、川淵池より小うらと云
此の家傳云當寺昔小室政國基と云敷内、寺を建善提下と云
龍雲院と云室政母との為と記すとも云是當寺の事也

○氷川神祠

流谷川と云 別當室泉寺 良寛同基

三田村

和名抄三田風土記 沖田 箕田

小條日記云三田彈正少弼と云ある因に姓古神願小室せと云 而を沖田神田と
云地より後年轉して三田と書ふや雄峯文集の箕田園の記云此地ハ倉津大
中下毅小流辺細の陣迹と云據ふ松を極くそ中ハ民俗云此地ハ
を龍とすともを蛇と云日記にもこの地考ふべし地ハ三田家の向願代居居
其家譜を抄ふると三田河内中子毅は細脂任せり武別三田といり代細の文字
を徳の文字を續くも左後人誤り誤り又元ノ窟三田八幡宮有り徳の石碑といふ
有り年号も時代相違せり云是も三田一堂の碑ありんや又武別是立郡

箕田の八幡宮なり是源吾徳出生の地にて代後も其地を多し事
後多系忠を以て見ても明白なり三才忠會に云徳老後、箕田に退去を其廟寺
を建宗持寺と云其地を徳の遺政箕田の事其地を立於箕田村と云あり
三田重町の地ゆりく六孫王經基東夷征伐の時此地の地と云是も是三
箕田の事と云既ふ兼平中經基武房を兼る地と云城の事一
基の碑を建を後を紀ス其文に詳し

○春日神祠 當社八村と帝天徳中武房圓司友系心房に任玉の時友系
宗廟たふよつて勅信あり其地より 九八百四十有余年

○洲海寺 嘉所 當寺性古竹葉寺と云より友系孝標の女の事あり
日記に云より

報三田郷 小系分限帳にも三田報を載より

風土記に令例湯と云は白銀の事此より今白銀

在系於河川順に麻布順ともいふくはけりるを白銀系とて

一系は廣系のもう一系は古徳もさるる今も白銀處町八町目の辺を系と
呼ぶ

土筆系は豊原村の目三田の事といふは豊原のあうりの畑を云り

○鷲森神明 白銀辺結也

社傳に云七代後冷泉院沙宇深頼義公白旗を紀の事ありと云白旗
山と号す

○雷電神官 白銀村 神主心と云

社傳に云七十二代白河院の時ある神軻軟突智の分身也と云

○三結坂 鷲森より白銀處への通り

専心寺に有る三葉の松と云民いらくを三結の松と云三結松を二本横とす
野寺あり

○氷川神祠 白銀熱結也と云

系神武列文宮同社遙拜而と云其地年代不知而白田社の事

高繩村

是言繩島の平野ありて今言痛と書き之痛といふ地也田町も
牛町二が横へりけり之論の月也と云て一島の廣原ありて既大永戦場
也今この田町も自ら令致が横品川は井より近きとて之痛原
と云る也

北条盛四喪礼云大永正年正月十三日と杉頼貞品川へ来て小山田宗の先陣
と云痛原あり戦い少永氏徳後陣軍勢ハ激谷へ入りて前後より
上杉方敵少時宇多川和泉も是十部兵部路系谷ひきもは時の血戦の
場とされははり軍戦のたまこそ彼のさきこのおやあさりも時
あり治平に化し浦風静に安房上條を至る遠京いんさるさきも
廣き平原も今の家居建つて繁茂の地とありぬ

泉岳寺

禅宗 元あさぶ基あり

東禅寺

同 同

寶藏寺

淨土 岡山慈覺大師天宮の佛圖を寺ありし云火くりて今
小院と云る

品川村

南北あり

元品川村といふ今の地より西の方池と道少の平地あり今言畠と云東海
寺南の向の地は品川の民家草を深く業は往古の殿ありといふ
今の品川端近の池と例を今この道節よりこの方を往來せしといふ昔
樹をとりて荒蕪宿より矢口の筋を今も一里塚の法とを横一様
そ道筋の破端をて道ありきといふ道を往還とせし

兜嶋

今例湯橋師町の古名と云

世に往古の往來の船を改め一昔なりて條自制れを之北条山月上杉の
割れ眞形あり今存をと云

○

寄本明神 同不日が武尊橋原を多る源義家と兜を納む

○南品川常行院 天台 用山慈覺大師廿四中一の古院也

○同不妙國寺 法苑宗 用山天目上人立七堂伽藍と云

並創年月不詳 靈現の二王有り運送之也

○さみは観音堂

弘法大師四國の時當不押願使品川氏之跡を以て所居を以て品川左京亮
と傳へ龜永中左京亮討死を以て古田持資は品川を願を以て一宇を建て
安重を以て後長祿元江戸の城より文明の願道灌藤舎を以て上杉定正
の爲に死を以て杉本和らぬ國東礼を法社寺院破却ふ及り山系或田と
對幸の付或田の或氏の山系を以て燒火を以て待たる武田家へ渡り
まより告ありてかたじけなく善堂不安重一兼龜元壬辰年法平江より善
堂を修造すと云

○海晏寺 禪宗 用山道隆和尚

後深善院建長三年亥五月七日世浦より大較より腹門より心觀音の像並現

是尚寺本より少くして世所を以て較例と云今俗に之れと云り 山系時頼

堂塔建立あり 凡二百五十余年同六年春入佛同七年供養あり

平時頼石塔又塔

二階堂出羽石塔

梶系石塔と云有 是梶系英濃より改宗あり

當寺鐘寶徳三年樓中出羽より芳附鐘銘ハ古溪和尚製也

品川之地建願ハ二階堂出羽より守護と云品川氏願せし始不詳左京亮より

龜永中徳亨祿天文願ハ山系家士守多川和泉より居後

同黒本村 北系分限帳にも出 上中下三村と云

法古ハ一系の曠野と云目黒系と云法書に見くより

大永頃戰場也又永祿元龜永頃品川より少くして

○大島神祠 大同年間法座のより世地大島村と云此神ハ三目正の氏神と

云系神日本武尊と云

不動堂

慈覺大師多剱の地と云

慈覺大師入寂の貞觀六年東下向の貞觀元也九百四拾六年より及り
或云申す不動の像は元日本武尊也其を居を立りてと云云云云
或云同じ不動を日本武尊と云云云云社を傳りし事あり
と云云云目録の地をの神は今申堂よりありありの二神在大事
権現の高皇產靈尊也早尾権現の素戔嗚尊又藤田彦とも云云地不動
と云云神は二月十日也此神は不動を安直以前に世にありしあり
為とも申す年歴の志を以てしとも傳りて旧社也

市谷村

古書に市買の地と云

八幡社の長祿中右田道灌新結
境内茶の木稲の當心地をの神ありしと云云云云
世にも大永の志は神威破壊と云云の傳り
性古世地を一面の芝原と云云長延寺谷より市谷の名ありと云云又長延寺の

辺に大池ありてそ餘水船河原と云地は舊ありと云

○藥王寺の古田氏勅後の稲の結と云

○大産天神祠の安貞中明惠上人勅後

千駄ヶ谷村

水糸分限帳に出 世地今も四谷の内也

古世地の萱野廣原ありし八幡宮の地旧名の森と云云云云
慈覺大師京師性優の侍らふ八幡神祠を勅後ありし千侍貞観二庚辰
年也九百四十二年及りて旧社也

○聖福寺觀音堂の北基北越北の頃世地より多剱又神龜二乙丑年也九百八十
年と云世より性古の志のく京師の御屋と云世業一が云云田道灌順貞
の侍世にありの稲子結も有しと云云結ヶ谷の名ありと云

○寂光寺の元日蓮宗今云云云云貝塚ありと云

○四ッ谷の古記に見てもいづれも世に性古の武蔵地ふつきて曠野なりて家屋
まをりていつくは形のとあり甲斐路に通りのより自然と四ッ谷の名
ありてそのうは四ッ谷の末今四ッ谷は二三軒残りてありと云

或い世地東為南北谷ありて四ッ谷の号ありとも云
南向本谷を寛永十三外湯廓出来内堀の堀を以て東為の南谷を埋り
て今ふ旧名残り堀所入りを堀と云又大木戸の南小谷とて堀林の一節を
ありて性還を改りて不あらんと云元武家の跡と不左今とて堀風高との
辻番少はつく棒さし股を立直りてと云又大木戸を石段々実ありと云
い世あり是大宗寺の心号を石段々実と云いより深きりのありんかの寺は
元辰の實をあらりてと云況あり是ありては石段々実の流を寺
宗徳法師ありの流ありともまとも定かりて元橋硝薬の跡在り
本神宮は社傳に永業中源頼義吾妻院の地と建立とあり
四ッ谷の先渡橋をぬく豊後郡多麻郡の界と云

牛込村

世地いひく曠野を牛飼養の地とありんと云

北条右張帳に牛込は太田常陸守領と云
大朝臣の牛込家先祖為彦彦彦と云と云と云田の地並領せりとも
上野國太田城を大朝臣十代目とあり始り武列牛込に移り北条氏康一牛
込并今井兼田日尾谷を介り惣堀切を築き降しては牛込に居たり大朝臣を改
を牛込とい天文順と

牛込城址今の芝草店の上城地と云牛込氏居城

○仍元寺 天台宗 用心慈覺大師性古の寺と云門は今の牛込門内
神楽坂に中あり左右南天の並あり又赤橋社も尚寺の跡と云大永の順
破壊より及りとも

牛込市谷の邊に大永中戦場也と云

往古の赤城も日向とのり皆田畑の。一政代町を以て水田を早稲田と云ふ
田畑之様町系町を以て此系と云ふ

○若宮八幡宮 若宮小治

文治中源頼朝建立む。一六社あり。一と云九六百十二六年と云ふ

○日向天龍寺田地 山細工町を以て元天龍寺と云ふ

筑古八幡宮 津久戸とも書

往古上杉官領時氏世の跡也其城之の弓矢を以て云

寺町關麻堂報善院の古平川に有る平川寺と云

同下多刈薬師心藏院長孫中右田道灌起立元平川梅林坂あり

其後田安と云ふ

寺町白根町を以て田安の地古く傳せし民家をうらむと云ふ南向茶屋

見ゆ

○右田道灌別館之地 築戸心、西今の万昌院の地なり。一後いばを以て殿と

云いし。一小日向を以て田畑あり。一を以て殿心を以て築之られ。一也。今ふ築地と

云ふ

○赤城神社 牛込惣社と云

當社の大胡の末葉牛込氏の初孫と云

○大友屋敷古海

海松寺のふいし。一。大友宗久希義延孫館の地と云

○宗參寺の天文十三甲辰造立牛込氏勝仍父重仍の為也境内の碑石を以て

馬場下誓願寺境内の小流を以て牛込氏豊島殿の境と云。今本堂の所を

在系と云。其の銘は武列に在系と記さる

○穴八幡宮 世地いし。一。河原池心威成院中の坊と云。古伝ありと云

山中分

水糸日記に戸塚の内と見ゆ今ハ名不知

富塚村

今の戸塚村ありしハ是牛込ハ田戸塚村と云ふ高田の地ハ
いみしく樹をとりしと云

○水船所社ハ文亀二年上杉朝貞勅造と云天文十九年牛込至厩時國修營

○寶泉寺ハ禅英と云是上杉朝貞の追号ありし尚寺別朝貞の建立也

ハ寶泉寺内ニ富塚と云り又云ハ境内ハ朝貞家陣取のより旗立松胃
掛梅等の名あり

高田の名分限帳ニ也

高田馬場の源頼朝勢掃のまし而と云又ハ馬場の武田信玄ハ家攻の時馬を
系とせりし不とも
後人書入リ
高田及薩物ふむらう雨を流んとて民家小入て藁をとりしハ一女棟棠
の花をとりし物しりらう是いしこふ花いさけともやんぶきめものむとハ

ぶふふを焼しきとしふふふありまより道灌感奔して和を
をぬりし是ハ童児も志をもふあり今ハ高田の馬場のありし清水師の
ハ別荘の内方十間坪のありし吹あり是ハその古伝を殊きりと朝三翁言
てむらう其地を寓月しる時園丁の物語しるこもよりこはあり
されとも和書して異國ふとあり

○威光ハ法明寺 寺傳ハ性古真言宗のありて威光寺と号

東鑑ニ云源家數代の御祈禱不威光寺と有る當寺の事ハ後ニ寺傳
ハ其不改しと云草創ハ仁元庚寅年安永ハ即て元九百六十八年と及今ハ
祖師堂を遷址る祈禱殿と云今ハ祖師の像を安置して祖師堂といり

僧司谷村

水糸分限帳ニ出今雅司谷と書ハ

ハこりいみしく巢鴨の庄と云ハ由

○法明寺ハ宗基慈覺大師元天台の靈地也日原上人の願日蓮宗と改宗基より元
九百八十有餘年と及り鬼子母神ハ永祿の願法と云地ハ堀出と云法文法戸

とも書民俗ハセイトウと云へり世地ハ今三角の井と云あり世地鬼子母神出現
の事と云

落合村

雜司ヶ谷ニ近ク高田の内也と云

池袋村

同上

飯沼村といふ池袋より近キ飯沼社あり古く旧社銘在不詳別當玄圃寺
銘也世地古の種人義道と云頼朝公社家の事あり大座の水田の事也

中新井村

今中新井と云どうくや為菊武里ニ有り

石神井村

上ノ村あり石神の社と云あり別當三寶寺神代の石鏡也と云
三寶寺池と云あり世下流五子村の旁へ流る志く世高と云今の水筋其也

たぐり

鎌間村

今鎌馬と書上ノ二村あり江戸ヨ三里余大根名産也

谷原在家

今谷原村和里ゆふ隣也

○長命寺 真言 佛圖あり是東の高野と云紀南高野をうつせり坑あり
し今其かつたを裏あり

神田村

小糸分限帳にも神田の名見へり

風土記ニ神田又韓田公毅 假粟畧々

神田と名義性古一圃ふ一不^リ神田と号せ^ル地有^ル其歳^ノ初穂を^以勢
両宮^ノ敷と^も田例と^も今^も保^つひ^てあ^らず^ル然^らふ^に世^ノ地^ノ葉^ノ傍^ノ村^を以^て神田
と^名ふ^に神田大明神と^も性^古ひ^てり^の皆^田畑^曠野^ノ地^ノ由^古き^書ふ^に
り^の小^川町^也も^三傍^村と^も田^畑葎^地あり^と三^傍神^社ノ^縁起^もも^世三^傍
傍^稻原^ノの^洞と^も田^社ノ^一と^も志^んと^も往^往年^代ノ^不知^とも^今ノ^三川^町
ノ^地も^三川^ノ小^流も^有一^と也^ひ名^{あり}と^も三^川町^も小^川ノ^流も^り一^と也^と也^又
そ^ノ後^ノの^地も^り田^初ノ^地に^通り^町と^三川^町ノ^間と^も知^れ田^畑寺^院ノ^也と^も

○ 小川の清水 今の小川町内各家宅地^にり^とも^三田^道灌^の二^つふ

む^と一^時ノ^小川^に清^水多^くあ^るす^て岸^ノ根^芹を^洗ひ^こも^とん
世^ノ奇^異東^古戦^録ノ^云富^士貞^徳良^ノ當^て山^に池^{あり}及^灌あ^る侍^也と^も
と^もり^り

後樂所といふ白石先生の神書に親世を更なる者といひ名あり
と云む是ハ内國初の初めの事あるとも固くうつくし

新堀間村 神田の門あり

今此地不知遺る考

芝濱村

紫とも書今の神田橋門の色と云

古書云平川と云流を隔てゆる方を神田御芝濱村と云う一姓古ハ
茂りともみまありてこふ

○神田神社 天平二庚午移座凡一と七十八年

陽島屋今此地一遷座あり 祭神 大己貴尊と云

旧名のまう神田大明神と神号ハ元和二百九十年許に依

○葉濱道場 今の濱ま日輪寺也時宗托以流

托以二世志教坊為屋之延文中ハ九百四十九年之後柙系と云ハ二橋
明曆ハ濱ま今の地ハうりり也

芝濱村の地ハ今の神田橋門内 今の濱ま田南慶平寺新堀の東南
ありと芝濱村をまうと云今の中宮幡隨院も神田と号すと云ハ
隅清天神ハ之地の古ハいさき也神田と号すと云ハ今麻布東福寺七佛菩薩
傳教作經基と守むと云ハ亦孫王寺とも云文明八年道灌ハ城平川ハ
安直を後神田ハ移すと云ハ今の土地廣山路之地と云ハ神田葉師と
稱号あり今此地ハ移りしハ貞享以後也

○田安と名 北東分限帳見之ハ 酒井氏と云ハ 田安の号ハ平川村の中

ありや

瀬名氏云今の苗阿ハ牛込門内ハあり近を牛田安と云ハ

○祭大明神田地 田安卷

承亨元ハ田太田道灌文明十年辛酉ハ城乾ハ田安明神を祀るハ是
川歌氷川神社と推すと云
或云筑前と社元三の丸ハ鎮座天心十七年牛込門内ハ移ハ元禄二今の牛込

の地は延慶律久戸明神と号す又説文明る頃城内移りて平川に
建立天正七田安に移りまは十年程後今の地へ延慶一、二、三、七、近牛、延
川、内、ありと云ふ今版田町氏子と云

南向茶話世築七神社を風と記ふ載らば戸神社也と世説如何未考非
果而城郭上の方へ築去明神とあり築去の号は牛也延慶以後の事と
求涼雜記に云版田町の姓古より代田村と云田安につぎ田畑あり後版田町と
改ると云云

○世継橋荷 文安の頃築あり 古田乃薩城地割の初より世道を田安に
そ〜う〜ん

○版田川 版田町下雑子橋のより入り堀む〜神田川堀割以前は江戸川と
を流ることを

小石川内門内より松原南のより小石橋を袖橋と云ふ〜傳へは姓古の市
公長寺池水牛込内門通り〜版田町堀止の水は流るる後

神田川堀割の時堀り埋て版田町を止すを時の堀筋と云ふ〜橋と云
今の神田川の流を古に江戸川執事橋の筋川南より流れて平川と
いふは屋舎と云ふ昔の初波の臺の地をけ〜時あり水府との
若此堀深き川へ堀はけけ〜掘去を以て土堤を築き内外は隔出来
たり〜後仙臺屋を命と云掘を深く〜り〜神田川茶
の水堀割と云〜後の事高を版田より川筋の首〜と云是乃法
二年之是を神田川と云

○三湯村旧地 小川町と云

○三湯稻荷祠 社地と云上古の勅造を年代詳あり近頃の天文七小茶

氏細江戸子代田居城の改造嘗あり地を領へ田畑并建之三湯村と云
後年倉町と云後小川町と改ると云

い〜今の雑子橋の北のより大沼あり是乃版田町も此の地と云
中込入のあり〜

湯島村

倭名抄 湯島 風土記 湯島

公穀 假粟 貢
等略々

北条宗良帳にも世名見ゆ白石先生退私録に油井島と見ゆ
風土記云湯島神社 雄朝津間稚子宿禰天皇御宇二年癸丑八月
自官所祭天手刀雄神也神貞百束三毛田是天神社の西小隅戸隠神
ありて高止地主の神也九一子二百九十有余年の旧社也

天満天神社 古田道隆文明十八年勧誘也凡竟惠法師社地ありし文明
十九年より北國紀に云湯島といふ有古松と云ふありてそののち
或は神の遠をうけしふ寒村に道す此梅盛は其は是ハ此社神と
ありしを

云んば是風吹むしと初まて遠くありたりその梅が

香月亭遺跡 古田道隆社をう亭と云

そと云今さうさうは天神社の事といふ又坂下家殊辨賊天の地云今
の地もその所のわらわ残りたるもいふ又後柳系家屋敷の事あらんと云

以て是一ノ大永中北条氏綱と云ふいふと云幸概は富永四郎左衛門二の九二ハ
遠く四郎を指香月亭ふ古田源六見分をさうと云云

○ 今神田明神社地の不同名を條考と云一ノ南向茶店に見ゆ

妻貞神社 此は旧社と云社傳に日本武尊東夷征伐降陣の侍此豊湯
島に戈を削り一社をたより妻貞明神と称すと云祭神日本武尊中櫛姫
舍櫛魂神也今按さうふ性古白鳥神社といふ當社ありて豊嶋郡の月
日本武尊をたよるる妻貞より介ふ所地と云記す志と云ふる白鳥神社の
説多載の条と云一見べ一或は今の駒込蓮光寺といふ此社地ありしとい
ひ妻貞社の其頃蓮光寺境にありしと云今駒込の寺地は妻貞櫛姫と云有
押上靈心寺 津上宗茂林 旧地湯島妻貞坂

本郷村

湯島本郷と地脈お接し或云本郷は湯島の西といふ南向茶店に
中興治記を引て古田宗賢本郷の館とありしを云き 北条宗良帳にも
本郷の名あり古光云今の久町といふは古田氏屋敷ありて地云今の地面深

掘り時の地中土石あり〜と云又古記云永祿の末中野北条家の古田藤原
心角寺尾藤原等の士在任と云り

○ 澄坂 姓古く小武原澄を制表せし者子孫ありて鏡を制表せし所と云伴辨物語
小言り今以五六鏡の鏡又鏡日幸記云心霊亀二高藤人を武原小辻と
夏あり世末の者そ鏡を製せしと云

小石川村

世名小糸分限帳にも出り

姓古小石川といふ流れ有る大川のより下既牛天神社傳も見ゆ如
般系松わさぐら板綱子坂あとの名は多きをわき光系寺のち傳も小石川
の入りといふ事ありわの小石川の流るる粟鴨為小より伝こま橋の石を
通り傳通院よりその石を流れ〜大川といふ光系ちの石基岡基三年
中善親といふを源此よりを中善村と云〜中善心の号あり〜と
傳起も見〜と云

○ 氷川神社 孝昭帝御宇秘座と云

又八幡古御義家系範の事あり三月月上人再興あり此地い上人ト居
の聖同居の古蹟也

○ 氷川白山神社旧地 貞永中勧修と云 曰百有余年
極樂氷宗慶寺 貞永廿二同廿七迄同多刹

岡基了卷三日月上人元傳宝院と云九三百又拾余年

○ 傳通院元 明徳年間建立

○ 淨心寺 指岩町 天文十九古田新六郎康資母義元平川に建立有

○ 祥雲寺 遠心丹波中の岡基世塔より〜ハ安安心保の頃ありん

○ 吹上 今氷府大学度の地古奥別傳及と云大木の榎有と云今ハはま
を〜大塚と唱り

○ 大塚 是ハ古田塚の略称也といふ流あり世七ヶ所古田氏塚を築り
と云い〜ハ東大塚と呼んでゐる廣き地也鶏聲を窟古井家の名ハ東
大塚と云浪切不動のふあを大塚と云〜廻國雜記

歌を思ひふりて小石川の瀬を渡る意こそらん
風土記に是を鳥巢鴨渚氷川神社を云々是武列一宮氷川の事なり
かくは江戸の小石川氷川の事と江戸志に記す又鯉川系とあり是も
小石川の事と云々考ふべし

巢鴨村

今小石川の門と云 風土記に巢鴨は是を鳥入中興治記に
延安元年正月六日芳賀入道禪可子息伊賀高貞武列板橋系と云
出づればと移る庫及憲將同を記す補能憲大將とて子葉即直胤子金鳥
是も武列巢鴨陣取の事と記す

○ 鶴聲ヶ窪

今地名のやうふあり元皇^{サイ}英系と云す
此地古井家内と鶴聲ヶ窪古伝ありしり今ハ酒井家の内に入ると云

○ 真性寺ハ仍基師同基也

金曾本村

今金杉村小石川に属すと云とも小日向に入ると云
更豊茶ふ城も居候の^ハ後小同宮と改メ小茶家と背同宮豊茶ふと名

葉より

○ 金杉天神社

今牛天神と称す
源頼朝公元暦元年建立江戸砂子小茶氏康勤法のものなり此之
是ハ氏康再身の事と云らるる

小日向村

和名抄日^ヒ願御名あり小日向ハ日ノ願の轉と云風土記に日
願公毅假粟貢物ト載る
又云風土記に白鳥神社と云を載と今ある也

或大己貴尊とも云勤法の年歴詳あり凡ハ又百年とも及祠と云古田道
權再身ありしと云然るハ風土記の白鳥神社ハ是と云教あり然考下
南向茶話に小茶分限帳を引く云小茶家の長身津加賀と六十に廿或百十
文願地の内江戸より落合様向小日向とも又小日向派三節知不或倍或
費八百は倍文又小日向派は屋敷ありしり 性古地地ハ白鳥地と云大池
より今久永氏宅地より今久永名塚の池ありとい又は是といふハ治池

多しと既よ江戸川の夏口のよりと流す小日向築地のるを通り坂田町のり
流れを後に神田川と水船整たりといふ

○善仁寺 一向宗 當寺其基は舊高日向善仁と云者のより一境内には舊寺
の煙塚と云あり又舊寺より氏の中興の其基の人ともいふ

江戸砂子には舊寺より向の名よりつく小日向の地名起りしやうより世に
いふ一然れは水道町里正坂塚氏の舊寺の一族と云ふ

○金剛寺 文明中を田舎薩再興と云事刻ハ頼朝時代を有し一東鑑ふ治養
六年小島寺の事をも今も小島實經石牌を田舎薩本像位牌あり

○上水端道祖神 牛天神別當龍門寺持也
南向築治と云為社ハ明徳二年勧修龍門寺より石より勧修の碑石あり水邊
雅記と云世神ハ面足惶根ある左中六天と云

○目白
道心幸神社一名駒塚神社と云りり関口巻町

系神猿田大神神社結之勢彦幸歴不知旧社也と云
性古世不度系と云孫倉街道の同道殿と云

○上水
駒込村 是れ古の牧地ありて一込の多し集るの義と云古武彦野村つゞき
系多し牧地も有りあり今駒込馬込牛込目黒と云地名のなり牛馬の
畑養のふありんと云

○本村神明宮ハ文治幸同原頼朝勧修と云凡六百十有余年と云
三ツ家結妙寺 法花宗 古田道灌多刻と云同石碑あり

根津の地え駒込の内と云今根津社内裏のり小あり駒込稲荷祠ハ世の
地主の神なり性古の有り也神と云ハ根津の地いり一田畑之今地名
とある性古ハ仔細伏森といふ所のより根津縁起小見也 根津権現
の祠田地ハ結成のり今え根津と云地と云不夜権現と云小祠なりといふ
名不記と云歴ありといふと云古江神寺縁と云當社系神素戔尊と云

或相殿丈已貴命事代主神と有り或區々の説ありともさふたうに
いふも性古より社あり

平塚村

水原家日記を以て見れば是ては平塚といふ想ありて是れ水原
田畑中里よりなり近も世間と見ゆ今平塚と稱はる不日つて是れ
小野辺を近を平塚の庄といひしやと云ふ所の見ゆ平塚明神社
云平塚の名奥列代成の八幡を希茂家世地と甲冑を納りし不
して今奥平塚といひし是よりそ名ありと云世地の城を豊徳希希近義
自他三連枝の像を多ありて平塚明神といふ三連枝を義家義綱義光也
九七百四十有餘年

田端左家

水原家根帳に云 今田畑村と云

平塚城蹟 豊島氏居候 鎌倉大寺より豊島助解由九邊と云者居候
の及古田道灌世城を攻く合戦あり終に没落し乃てりと云

○八幡宮 文治又源頼朝勅語 九六百十二年と云

別當東光寺同基ハ以基僧心也

○六河内院四番目興樂寺同心行基

西ヶ原村

○昌林寺 禅宗 性古補陀治壽院と云本寺末本觀音以基同基也

永中鎌倉持成公母堂建立文明中を田道灌英田齊附大井又云大

高堂宇灰燈と云

○六河内院三番目 初長福寺と云

同心以基

世為ヶ原ハ水原日記に云り平塚の庄と云深井の名見ゆ

尾久村

上ヶあり

梶原堀内村

豊徳村つぎ荒川のそと世より堀内と云ニテ不あり

梶原村は清くは世名あり他國よりは類多し梶原村を以て
久しく是の小系の後梶原英濃とあり天文の以豊後郡小任り
又梶原日向と云ありこれの古縁ともあり

豊島村

是豊島郡の豊島村といふ所の郡府ありて豊島
左邊清光回漢今清光寺と云ふ寺院あり 延喜式の古縁
の地あり

○六河弥陀一番目 霊場あり 冥基は基僧ありて神亀三丙寅年也凡
一子八十餘年と云り

滝野川村

古名松橋辯天と云
源平盛衰記は滝野川松橋陣を有る事見たり凡そ六百有餘年の
古蹟也

十條村

壬子也 天心頃小系氏政長遠後何某領地也と云
世名小系子村を久くそ頃の何の村ありと云り

あり飛鳥の碑銘に元亨中某記立の由記されたるも是は再營
の年号誤り八幡を即辰家と後源頼朝と等系銘の誤ありと云
うをりて是の時ありて記立たりと云ふ

大藏卿

世名未考
按ふ小系が根帳は板橋門大藏卿といふ名ありと云ふは是れが
爲りと云ふ世大藏卿系は是れが爲り今この庚申塚といふ名
と云ふ古名あり

志村

十板橋ふ清くは性還ありて廣き世あり今も志村の系と云り
妻の板橋まゝく夏月も未ふありと云りては松虫鈴虫を齎す

板橋村

上小系あり十の所の御場中仙道は戸も二里上の方の練馬あり
川越路ははつかりの地形あり

○武蔵小安養院西明寺 法言宗 小系時頼建立と云

○板橋古城地

子ニ出ス

板橋肥後弓居傳の如千葉次第ニ屬ル鎌倉大寺
又云志村ノ丸池と云ありむ。此川筋のうゝ之里水鳥鯉鮒の類多
左村ノ小湊ヲ川ワリ是戸田川ト云ル川ノ流キ中流ヲ渡リ川ノ下
此川を以テ若湯是立支那ノ界ト云川向ハ上戸田村也

下谷村

此地湯島本々ノ名ヲ傳ヘ又上野のノありとも下谷の
名ありと云

風土記ニ下谷國ト云下略

○六河御院常樂院

宇山ノ墓

順礼ニ昔目下谷

○下谷稻荷社

下谷惣持寺

今傳ニ廣徳寺ナリありと云

天保申以基勅給と云 九千八十年許

天慶申將門逆討の候友原秀郷造營と社地ト見也

代心村

今世名不知地理を考ふるふ上世ノ下ノ名この地ありともあらん
水糸多浪脛ノ廣澤内代心ト見也

上世の名世名ノ載されとも古き名ニ水糸田記にも上世合符あり
ゆゑり元世地小字ニ名ありて學生茂りゝ地ありと上世と云ひ
より之里又是の名とて八雲抄にも武名名不と出り又書にも
之方角抄也

宗祇法師

源ノミ瓜あり此等風不先と云々
史本集志丸ノミをむき

甚経和尚

家意ハ忠心の果ニ秋葉をほいてゆくぬ志丸ノミをすき
上國雅記ノ也ハ忠と云々

道真准后

此のありりれき時を忠心の果にねもきひあり
是文明十八年あり

北条紀行の武蔵野の東のさういふ思ひの懐折一時延座は又兼天神
と申す所のありし一枯るる葎系を燈行り

竟意法師

契りて遷りて春此初まゝ思ひの思れおのりりえ
は亦の文明十九年正月末の事とて

此の家の社は今が谷山行りて居る今此と此の申のさういふ所りしとて
中堂初を遷りて頃迄きとてりり

又兼天神の少老名をさういふ後小満天神を祭る如とて
又と此といふ名義の事ハ江戸所子も亦友堂家の并宅行りし

友伴契と此の地理の似たるをともて号せしる也車坂屏風塚の名
ありと云ふさふ天心の後の此は友堂家のさういふ所りし津煙家堀家の

宅とて此家行りしすもさういふ所りしのも亦も伴契と此の對してさういふ
作草 御茶業後の事とて又兼此の名ありて北条家の時よりさういふなり

今坂本の地は此の小野照濟明神の社傳をさういふは社今の上野の中
をさうあり寛永の頃さういふ今の地さういふありしとて小野管朝は此の
任行りて上家の時さういふ此地さういふ所りしを事とてさういふと上野
と稱しより上野と号初とてりり

世さういふ池沼のわさりり是不思池さういふ

風去記に云條端津池周りに三里許
不系瀬織津比咩と云今辨文天をさういふ

関屋村

今此名あり関屋里地とて本母寺さういふ牛田と云ふ不系寺の松二
本ありしとて
照る院此のそりり
歸らるの道不系里の里もありしとてさういふ所りしありの縁と

本下川村

茶師堂

別當淨光寺

岡基慈覺貞觀二年より享和二戌春完帳の侍近九入百甲三年に依
本下川村茶師佛傳縁起に要す

小糸氏康氏茂野巡見の願當寺に宿りて寄りり或は此地に於て是
天文十二年仲秋の事也

松風の吹聲や身を驚かすつゝ洞とある所こそわづらひ
此寄枝葉拾葉に入

平井村

此村あり龜戸と中川を流るる向之世田村とあり世田り
此を流を大く

龜高村

本名本川末砂村を今存す
持宝院 去言

今深川の地にかたむけられたるあり深川と書きて是之深之川と云ふ
葛西殿之古きりのり深川新田と云ふり永代高の地を介深川の地と古流

あつち

洲段沼

一島ともあり海汀のありはうら二島あり

廣澤村

今此名不知北条が根帳に廣澤村日代とあり倭名抄
風土記とも廣澤の御ありり廣澤の廣澤の地とあり

根岸村

上洲のつぎ今何をり根岸のあり今板村ありは色皆

箕輪高屋

今三々輪とも箕輪とも書たり今板のつぎ
慶安のあり小糸宿村とあり小糸日記に箕輪守とあり姓古地

廣澤のありみのとあり古流の地と

金杉村

今と鹿順也
坂本のつぎ今何をり根岸のあり今板村ありは色皆

○坂本の名古きりのふとをえ入岩村の月とあり

小野照清明神の小野管の回地あり回地の上洲下門現龍院のありは色皆

移りし寛永中

谷中村

水糸分限帳より名出いし谷中三俣と云馬場と云此の
ありて今昔對ししとありし清水村清水福徳の旧地今清水門
の邊今清水の形あり是も寛永中よりありと今清水法恩寺
も同く有今伊豆侯の地之助徳法宗大業寺も谷中亦有といふ
後之銘ハ深草元政の作今谷中ニ寺院多しといふもいしりし永
隆寺長樂寺普光寺旧地今普光寺坂の今之も普光寺也
感應寺完心ハ日蓮上人久日蓮宗之今天台宗と云

新堀村

水糸日記に出今日暮里と云
飯沼縁起云尚不詳發ハ仍基僧云云飯沼神祠ハ吉澤氏の勅録
中奥太田道灌城門の跡也云云由今道灌心といふもいしりあり
いふも其地昔城の跡と云も據あり其地ありき城地ハ必是せり云
此地も其地あり家居もありし次中いしり地といふ

道灌心

古本新堀心之船載末松といふも崖岸あり
道灌存候基云といふ中寺地門ありし傳ハ筑波先生碑銘あり
世多し類いし七ヶ所のそといふ

三河嶋村

新堀村つぎ
世多しいしり入海ありといふ船売山と云あり
世多しいしり尾久のつりといふ今も中を海く堀る船売多し云云
三河島のいしり改めとも一宮ありといふ水糸分限帳ハ世地細谷といふ
人知り居居の所といふ

鳥教村

水糸分限帳もいしり
鳥教神社を本社といふ延暦大同の年録座といふ年數九十年と述
水糸神天見屋根令一坐
此地をいしり記す時ハ海岸ありといふ地也其地法師の山國紀ハ其地を
名前の海村といふしり其地ハ文明年事の事ハ後次ハ陸地とありたり

海陸の交遷の事もあらず存の記の文章を以て今の汝を考ふ所の
三宮の彩色紙を古き地と云ふは既に先述の地と云ふ事歴を理
官地とありを代りとして三宮の彩色紙の名ありを其地と云ふ
熱田祠もその彩色紙の地と云ふ事歴を理
北園紀行 文明十九年
竟良法師

四國雜記 文明十八年
道無准后

○多紙橋 天竺何大通りいりくは世にり皆多と云ふ事歴を理
の事一里不相遠あり

○銀告八幡宮 福井町六祠の後冷泉院永業六年源義家と奥列伝代の
事

○中六天神社 欽明天皇の御宇紀と云九八百年并及なり但し今の地
の事一里不相遠あり

○風土記云 日願 公毅 假粟 貞等 略々
白鳥神社 白雉二年五月新奈日本武尊也神貢又十三東三宅田云
和名抄に日願御石あり 地今たらうなり

按るふ多紙の地は古海原と云列傳の地改るは日願の事と云
既に多紙神社熱田神社並に立りとも熱田系神は日本武尊と云
然るふ地正保二宮年よりて武家の地と云其地心谷を給り熱田
社と云ふ今の彩色紙の地と云ふ事歴を理
ありん又多紙といふも白鳥の縁を以て号するや或は小日向を日願の地
云然あり是は日向といふ事を以てとすなり又いふは

川の多さよ

白鳥池と云りりー由又小田向を越えたりと氷川の祠あり日輪寺境内
にありとも世氷川の古田氏再興のよりそ古き祠ありとも不承に大己貴の
神と云然れいそきとも一宮ありりー新名越の今なき多越の
源壽院 律宗古刹も元名越とて天慶改の記ありりー寺傳より田井
寺も正保中移りりー也之

漆草村

東鑑云漆草の名はたり水原分限帳より云
姓古下等。世よりりーつけて平地よりそ我々此の末にて多も坪のつり
漆草よりそ左漆草と云りありりーとよりりさもつらんの世末に漆草の
名あり是もまた此のさきをりり既之親善堂のきとも一系此系叢と云
菊葉三系をりり地と親善堂の頭系列りりへの叢を以て帳堂
をりりけりり云りり
白川院の御製より

我々此の所よりり一ツ家の石れ地や此ちりりり

親善堂

本より親の推古天皇三十九年當時近九一子百七十一年

親善堂旧跡 今の一推親親善堂刹の地之九三百年十余年よりり安置

貞観中道賢大伽藍建立或ハ大化年間勝海上人再興とも中興云りり
りり

当の地より神の西宮稲所社と云或云稲所よりりす稲所境内右
のより小祠ありり西宮姫子大神宮此神を以て神地と云る稲所をりり
と称をりりり然るに親善堂と云遠く親善堂親以承年歴ありり
祓の旧社之當の井の古木と云りり今佛法院門前よりりりの大樹又本
堂のりりりの相生銀杏ありり大樹古木ありりり

入堂塔并輪藏 駒形堂

東産院天慶入 安房大寺平公雅建立

但一經院天和年焼亡を後再興ありりり

・神真堂 本堂の成まのり福寿海と云類あり世堂の古の書法と云

・鐘樓 鐘銘に至徳元年丁卯又月とあり

・馬ノ繪馬 民俗物時古法眼等と云此之筆意古法眼とあり此と云

云々れとも九六七百年余の墨をたを應へて同物とありと云

・宮戸森福所 江戸砂子の高社の親吉出規以元の回社といひ今

の漆葉川も又戸川と稱し世地も又戸森と唱へし

尚親吉の地いひし森と云ふは之を世門前の墨列街道今の並木町も

松木の並木といひ

或云近キ須並木町と云ふて並木の村中より大なる木の根を

掘ゆと云ふ

・六地蔵石燈籠 廣小治東の方より

いふも古物といふれとも年代たつた事不詳

此も雜記を後集といふ所とあり

冬のみたまは後集のうら秋の果をとも張はるる

いづのあり石の物といふゆゑとある石のりといふ

是れ紀元文明十八年の事と

東國紀元文明東順礼親善後集と云ふとあり

秋のうら木中集の初も後集の果流をとも角田川に

是天正十二年の書あり

砂利場と云ふ砂利取地と云今地りて町と云ふ新安子簡と云後集砂利

取場元は是れとあり下陸谷の变迁目録よりと云ふとあり

是れよりと云ふ又田町の色は田畑の

世後集と云ふ地居のうら今地りて寺町と云ふの薩道生

あり一沼池のうら人古と云ふともありと云ふ今寺院

より一沼池の湯島神田の地より後集よりと云ふはあり古

徳の寺あり

金戸村

今世名あるは

今石川戸ありの名ありとも小桑も限ありそ名きさへをひてその事
あり

○侍乳心 或いま心

勝地吐懐編に欽長天鏡産社傳に推古帝所宮尚ひ降臨ありといふ尚心地をの律と
云渡りありし
るまのち心
ふかありは古
云ふよりん後
の人の名あり
こにお祈り
おとをふ屋
記をいせん
ハ文明十八年
享和元年及び
三年十五年及
び
いふと我々のめも抑うぬあつた後のゆつちのゆつちをきぬらん
とらんともは力ふりみぬまのちふ層をぬかるとさぶしとて
いふと我々のめも抑うぬあつた後のゆつちのゆつちをきぬらん

○今戸八幡宮 康平六年勧修と云

千束村

想て渡りあり千束郷といふやう

渡りありの種の新も千束郷と出

今龍泉寺持て右寺院の賜ふ千束稲所社あり又新吾系の時もいふ
はは龍泉寺の境内ありと我今龍泉町ハ下谷ニ居せり

石濱村

今橋場と云 少桑分浪帳に石濱既ハ十一メ文とあり砂尾郷

石濱庄橋場村と云古今の渡りも橋を懸けたり 渡右橋場の名残り

と云 志保といふも本名の石濱とせんハ志保神明宮石華表も石濱神

明宮とあり

○朝日皇神明宮 世も石濱神明と云古民ハ志保神明と云

聖武天皇神龜元年甲子銘座中右千葉介常時建立文治八年源頼朝と異
別恭愍征伐の頃系親ありと云

同所志保稲所あり千葉介兼胤の靈を奉りて祀と云

○橋場法源寺

○石濱古城蹟

龍泉寺の地と云又寺の後の所とも云或ハ神明の心あり
ともいふに地不詳 千葉系親と云千葉守胤ハ天文中石濱に居て古

道灌死後より二十年に及ひし云

○ 那尾山不動院 天台宗 橋場

那尾山不動院を建立す世那尾氏古田道灌と合戦あり是を石原争戦と云

○ 千松山本性寺 法花宗 橋場

性古世地そ日蓮西人徳宗と同言あり一云是を橋場同言と云傳ふ

そ同法今廟の如く芝残り松一本あり本堂と番神堂のるは境内に秋ふ

自雲の堂あり世ふ痔の神といふ是近世の事と

○ 橋場渡 隅田村に渡り別隅田川と

世地むりの奥別御庄といふ

○ 駒洗川 古名思ひ川 今橋場の下小溝を云ふと

南向茶話云頼朝と角田合戦の時馬を洗ひしといふ且西雅記に事あり

河佐谷

今世名は名不知今深茅系と云ありり一は地をともりんは深茅系に徳泉ちの茶とぐら斗の所をいり

○ 鏡池 同所いり一は池あり一といふ

○ 妙亀塚 同所塚起と云ふ十二代村と帝の御宇とあり

○ 妙亀山徳泉寺 橋場

當山中奥国基 子兼介守胤法名徳泉寺殿昌轍大居士弘治三丁巳年

十月八日卒すと云又塚起と云妙亀山と云山号は梅若丸母堂表子局後妙亀局と

い終ふ妙亀大明神と云ふ事ありとありとあり

梅若丸の時代

中奥子系氏宗基弘治中と

又高寺小字船又係三帝石塔と云あり弘安徳治の年号あり弘三帝の各

彼家の通称と云い中奥の人の碑あり一は元祖と云右ま一世島と會下寺と

云あり是の今に徳泉ちの事あり一は地あり一は子系氏城地の所と云

且西雅記

人あり一はとさひ一はさきと云り深茅系の名をいふ

びらりききて古戦場の地也今も首塚ありと云あり是を今もるび塚或は
塚ありと云きり蛇塚に総泉ありと云細中ふあり文塚に馬塚橋ありと云
道の端ありと云

○ 玉姫稲荷社 楊場田の中あり

新田義貞祈禱の事社傳にも然れは是も久しき文居あり

○ 山谷 或は三谷とも云世にありと云はるいづら又昔もあはれに三谷もふと云

あり揚る深草の原深茅の系ありと云ふて三谷ありんと云戸志もと云
是考ふは地も世の改の家居もまをりてと云三谷斗もと云三谷
と云ともと云やと云類他ふと云

○ 山首町 易以院 澤系文龜二成起立と云世に楊りしハ明暦二の由

元ハ山の宿小出の家史の如ふありと云

○ 小塚系地多祠 系神大己貴神事代主三神之中古も素盞島命を合と云

と云今其端天と云回き社也天曆中結座

○ 世田面右村 流きて流きり今の隅田川激甚川あり古名宮戸川といひ水

源荒川と云秩父山中津川之流と云古世と云てハ海の入にと云と云まを
漁人も住て海苔もとりしと云り脱ふまの世にも松の世にも昔にもわをふ
小見と云と云と云り又小糸氏康紀の世にも地へあり隅田川も安房上総まで
是時と云と云といふもその地ハ不の地もと云ふ今ハ小柳柳島飛と云りの
やと云あはれまの時ありて今よりハ百年前と云ハ不も新島と云ひと云明暦の
此のりのよと云りといふも後年と云り追々ハ不底の地廣くあり川も狭なりし
ありと云観音の地殺生を制せと云と云り其地の漁人業ありと云川の上
本表村のまを福りといふと云と云古例をりて今ハ観音ありと云といふ又
表村よりと云ありて神輿を船中ふりといふも後を是と云古ハの遺風あり
と云三社権現の表此碑銘と見ゆ

○ 古び大川を以て表流中流の隈と云と云と云表流式傳名所とも表流の圃ハ廿一郡

と云々葛降郡の名を或る所不属せしむるの故や小糸の此れ也
むらゝふ葛降郡の名あり

小國紀のりよ是文明十七年の記也

角田川の東岸に中流に或る所なり利根入向此二の所あり
小波古き後あり其の法に遺村あり其法に孤村あり水面修くことあり
小波古き後あり

長平平家物語源平盛衰記あり

板倉清依或る所の國と中流の界隅田川のりよ陣をとり
其の國にあり

濃田同書云々不中々竹林某の別荘に建てる碑あり

葛降郡中々徳國之貞享三丙寅春田三月刻利根川を屬氏茂國云々

葛降集卷十四下徳國ノ文に首より

甬保栢里能可豆思加和世乎爾倍須登毛曾能可奈之伎乎刀甬多
早御 為登難 我思人云

十ノヤモ
底米也母

土川前出の稲もいえきくを食する所なり
時やいふものなり
たりともいふなり

牛島村

其不意の地名を牛島と云々由今あり牛津前あり

○牛津前祠 慈覺大師開基貞觀二辰年勅造

九八〇年十二月 別當最勝寺小津前表町

或古中より掘出る石碑を貞觀十七未三月とあり

○秋葉祠 舊地村 正徳中勅造と云九八〇年

いよ民俗向島と唱へり
隅田川まきの名ふきせ夕城といふ居候のといふ年基のあり
其のありは其の跡にあり

川紙記云庵橋中のち心世不帰りしと名を跡一坊とて下略六川紙記
の天文の書しん終文少のたしきりのそ代を九或百六十年も及
ありしと

押島村

今妙見堂の名と云

飛戸の名古きとのよ見とて旧名何と唱ひし地とや然るふ地少のたて
ありを以て見れり古名たりありしともそ地少のたて古き不也

○香取神祠

飛戸跡と云 藤原鎌足と勧修と云

正徳建仁のる祀と云九六七百有余年と

○安蓮寺

吾妻表別當也

乾元二年

九八百年并

○吾妻森

小室井村

景行天皇御宇鏡座と云の城と云武中下の古跡と云なりと云九二
余年と及り中興軍基正徳二之九六百有余年と

○六河浜院

古昔青目霊場其基別當常光寺九子有余年と

及り

○亀戸曹門院

大永中隅田川をり有る年月不知を後此地移りしと云

鐘の淵の鐘の高院此地より付鐘院没と云と云首領鐘の寺

或飛戸名この地古の性還のより蓮上人房の鎌倉通の路も此

不ありと云り脱ふ子系石の推しを立て廣布を思ふと云り大徳寺

縁取不見たり

○寺嶋村

白鬚祠

天曆二年勅給と云九八百有余年

○本不元本元と書しと云り此の地今も武列曹師初為曹為成と云

武成世二初あり延喜傳名抄にも武成世一初ありと云り此の地今も拾芥抄

の武成世二初ありと云り此の地今も武成世一初ありと云り此の地今も拾芥抄

拾芥抄と云り此の地今も武成世一初ありと云り此の地今も拾芥抄

此九節 葛尾と云り此の地今も武成世一初ありと云り此の地今も拾芥抄

きつね利根川をりて武隈の界とありけん

又中野の地いよいよ新い鴻成の牛島新田ありと云又柳島出村ありといひ
とあり今の中野村なるに柳島の岡と云と云し一は原麻子に云白蛇と云
とあり花の跡くくつと芝刈等永藤生あり或は田畑あり田畑の境
流を堤あり今も田向院あり古堤側の名残あり南割りあり又田畑の
の用と堀の地と云

柳島の毛衣と云書しも中野元芝野成の田畑也と云此地あり古に流あり
戸柳島隅田牛島の名ありあり南のふちを画書き立川にりくくけ
古堤ありと云りてありすと云

○中の御堂の古堤あり業平天神縁記を以ててこれに在り中野の事と云を
今傳へて中野御堂ありと云と云
中ノ御堂賢寺出六天別當之
文明六年紀立九三百有余年

月多田茶師 別當東江寺 天正十一年紀立

月泉龍寺 八幡別當之 文明三年紀立

月八幡宮 文明七年紀立

月古子堂 如意輪寺 慈覺大師実基也

北本所表町神明宮 徳座と貞觀二年といふ九八百有余年

原庭成就寺 正和二年創

小梅代地福巖寺 延徳三年創

石原村

妙源寺 法花宗 阿井町 建永中創 九百七十有余年

清光寺 天台宗 文明三年創

奉久寺 法花宗 天正三年創

○小梅村のいよいよ柳島ありと云地也と三圍縁記と云

○三圍稻荷祠 同山弘法大師 別當延命寺

○中御業平天神祠

求涼雅記云性古社横川の梅を在横川堀割頃今の地へ移さる旧地は今水戸公に敏舎内へ入るに於て

須田村

今隅田村と云

古(隅田川と云)今(隅田川)を本母寺の後へ今是を古隅田川といひ

○本母寺梅若塚 貞元中起立と云 九百八十余年

氏茂建記云 小糸氏康 此記云天文十九年也

船名をさる川流の舟にあんとしどそ人を名のと在系

水國記云

源のとらむうはさびまを川原や白さる此源の

回玉雜記

古塚のうさり水のまを川原さるりてとぬう袖う那

おの一人あき身あきとも隅田川名もむのさる記於るが

は介男云

按ふ是今の後町さるりて八丁堀本横町あとの地へりける地不そ未生以前のまをさあらん既先藤系の地へさる後此年元和の記及び旧池藤堀を埋め築き築後ありといふ

○是面とのさるおのけり朱筋一通りとは是古の官道とて京師のあろく性樓の古跡を傳へ云性楼の東の方の海原池沿多くと性楼のりさるりてのさる心のりさるりて性楼ありとては朱筋のをり古記を必く考ふる性還に相違ありとて其地と古道といふは終あり今も傳承をさるる多し或は或も東海道に属して古親系使も東海道より今の稲毛通りを来り終り又古史より西のさる府中ありとも終りより時代よりして其所の變をさる事性楼にあり

此島の及筋と云ふ所の目見の上世田谷法台と云ふ百人町を水筋を經て
子持ヶ岳八幡門前日管より三田雜司ヶ谷法明寺殿をり護国寺より
ろろ板橋を横ふ見えて瀧川豊島村三田雜司ヶ谷のろろ爲ヶ原平塚と石渡
出隅田川よりと性来と云ふ所より及筋あり喜心百人町より初めおろ小田原
性来せしを中道と云ふと東海道と二里をと云ふ
源持賢平安紀の文明十二年之頃の道筋也大森河邊に此川と云ふ
東海道を京師より云ふ
水原氏康武爲此道紀天文十三年也此路筋の山田原を經て鎌倉出
友澤甲斐より此路筋に入むと性来
むさし性来といふとさしをいふ所の山田原を經てかたけ
夫より長井の名山田原の名史より大澤の名此大澤は今の上坂あり是をさし川
と云ふ

文久三年癸亥十月下浣校正一過了

江戸書僧

法高五源畦磨呂

四年甲子四月上院再校

活東子

明治二十一年初秋

筆者

妻木頼徳



